

創建式百年祭
上三原田の歌舞伎舞台

尾上右近 特別公演

ライブパフォーマンスと映像のコラボレーション

【プログラム】

オープニング「Liquid」………… enra

素踊り「^{やすな}保名」清元連中………… 尾上右近

トーク………… 尾上右近

素踊り「^{りゅうせい}流星」清元連中………… 尾上右近

エンディング「MEMORIES」… enra

【ライブパフォーマンス】

enra

映像と人間の動きのシンクロを極めた、独自の表現を繰り広げるパフォーマンス・アート・コレクティブ。2012年に設立され、様々なジャンルの個性的なパフォーマーで構成。代表作品「pleiades」はYouTubeの再生回数が800万回を越え、そのクオリティの高い映像は、世界から火がついた。

世界中から出演依頼が殺到し、イベント出演のみならず、各国で単独公演を開催。シンガポール公演では3,000人、台湾国立劇場での公演に4,000人、メキシコ野外劇場公演では8,000人の動員記録を持つ。2013年、内閣総理大臣主催の公式東京オリンピック誘致イベントでパフォーマンスを行い、招致に大きく貢献。2015年、カンヌ国際映画祭授賞式で披露した映画祭のためのオリジナルパフォーマンスは会場を沸かせ、世界のメディアで非常に高い評価を得ている。2年連続で開催しているUSAツアーでは、全ての公演でスタンディングオベーションを受けている。

結成わずか7年で訪れた国は、すでに30ヶ国。アーティストとのコラボレーションも積極的に行うなど、さまざまな表現に挑戦し続けている。

enra.jp



enra



Liquid



MEMORIES

【歌舞伎舞踊】

尾上右近

平成4年5月28日、江戸浄瑠璃清元宗家・七代目清元延寿太夫の次男として生まれる。曾祖父は六代目尾上菊五郎。母方の祖父は俳優の鶴田浩二。平成12年4月本名の岡村研佑で歌舞伎座『舞鶴雪月花』の松虫で初舞台。平成17年1月新橋演舞場『人情噺文七元結』長兵衛娘お久ほかで二代目尾上右近を襲名。舞踊に才能を示し、平成20年2月大阪松竹座『連獅子』の仔獅子の精、4月金丸座『供奴』などで注目を集める。名子役と呼ばれた時代から着実に経験を積む。平成30年1月浄瑠璃方の名跡・七代目清元栄寿太夫を襲名。同年4月、5月はそれぞれ松竹座、御園座でのスーパー歌舞伎II『ワンピース』にて、市川猿之助とダブルキャストで主人公ルフィとハンコックの二役を演じ好評を博し、7月には、初めての現代劇『ウォーター・パイ・ザ・スプーンフル』に主演。11月には歌舞伎座『隅田川続 法界坊』のおくみ、『お江戸みやげ』のお紺を好演の一方、『十六夜清心』では七代目清元栄寿太夫として初お目見得。歌舞伎俳優と江戸浄瑠璃の太夫を両立させる「前例のない」新たな挑戦を始める。平成27年から毎年続ける自主公演『研の會』で研鑽を積み、NHK-FM『KABU-KI TUNE』でラジオのパーソナリティを務めるなど、活躍の幅が広げ、実力と人気を伸ばす、期待の若手歌舞伎役者である。



尾上右近

【空間演出】



作品:下村奈那
(ディレクター:Reny Busson)



作品:縣健司

下村奈那

1990年生まれ。福岡県出身。

2017年東京芸術大学大学院修了。2014年にSENJU LAB第1期生として参加。清澄白河アトリエタキグチを拠点に書の研究を基にした制作活動を行う。東京ミッドタウンアワード2018 アートコンペ準グランプリ受賞、他個展・グループ展等。

縣健司

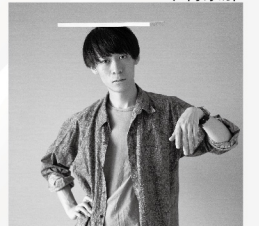
撮影監督。1991年神奈川県生まれ。東京藝術大学油画専攻卒業。同大学院修士課程絵画(版画)専攻を修了。同大学デザイン科非常勤講師。写真や映像でのドキュメンテーションを中心に活動。多くのアーティストの作品や展覧会の撮影に携わる。関わったプロジェクトに、『SENJU LAB』(東京藝術大学)『Wonderful world』(東京都現代美術館)『ノイズの海』(豊島区立舞台芸術交流センター)『Naked Theatre - 裸の劇場 - 』(神奈川芸術劇場)など多数。

SENJU LAB

作曲家であり東京芸術大学特任教授の千住明が主宰する、ジャンルを超えたコラボレーションを生み出す総合芸術の実験室。東京藝大の全ての学生さらには卒業生をも対象とし、2015年にスタートした創作ワークショップ。これまで様々な領域横断的・実験的な作品制作、プロジェクト企画が行われている。



下村奈那



縣健司



千住明

上三原田の歌舞伎舞台

全国に例を見ない特殊な機構を持つ上三原田の歌舞伎舞台は、字高井の大工永井長治郎が上方に修行に行き、帰郷後の文政2年(1819)、字大門の赤城山天竜寺内に建築したと伝えられています。

上三原田の歌舞伎舞台には、大きく4つの特徴があります。第1にガンドウ機構、三方の板壁を外側に倒して、舞台面を2倍以上の広さにします。第2に遠見機構、舞台の奥に遠見と呼ぶ背景をつけ、奥行きを深く見せます。第3に柱立式廻転機構、平舞台いっぱいの回転部を回転させます。第4にセリヒキ機構、二重と呼ぶ小舞台を天井・奈落の双方からせり上げ、せり下ろすものです。

上三原田の歌舞伎舞台そのものだけでなく、舞台操作技術も文化財であり、その両方が伝承されなければなりません。その技術を伝承するのは、上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会の皆さんで、「歌舞伎の公演をするとなると、この舞台は、80人以上の大人の力が必要になる。奈落、二階、平舞台の全員が、チョン、チョンチョン、という拍子木の音を合図に一齐に操作するんです。全員の呼吸を合わせるのなかなか難しい。」と語ります。



伝承・上三原田の歌舞伎舞台の観覧席は、地元の保存団体である上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会が大掛かりな舞台公演のたびに制作し、終了後は取り壊すのが伝統となっています。材料は地元の杉・竹・養蚕用具などで組み上げますが、特筆すべきは、18mの杉の木を1本そのまま根付きで切り出して制作するアーチ状の屋根の骨組みです。



棧敷席屋根の骨組

棧敷席屋根の骨組

高棧敷席造作

小屋がけ



跳木全景

舞台正面飾り

完成した棧敷席屋根

伝承委員



奈落操作

奈落操作

二重操作

二重操作



点検操作訓練

点検操作訓練

公演の様子

主催：群馬県、群馬県戦略的文化芸術創造事業実行委員会 共催：上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会
後援：渋川市、渋川市教育委員会 企画制作：SAP 制作協力：エンパイア エンターテインメント ジャパン、SENJU LAB

詳しくは、県文化振興課(027-226-2593)へお問い合わせください。

創建式百年祭
上三原田の歌舞伎舞台

尾上右近 特別公演

ライブパフォーマンスと映像のコラボレーション



撮影：田口真佐美

令和元年11月9日(土) 17:00開演(16:00開場 19:00終演予定)

国指定重要有形民俗文化財 上三原田の歌舞伎舞台

